

北海道遺産は、地域資源の最たるものとして、当然のことながらブラッシュアップされるべきものと思いますが、誰が責任を持ち守り・発展させていくかが重要だと思います。責任の所在が曖昧なままだと、いつのまにか消滅したり、元の形とは違ったものになってしまうのではないのでしょうか。また、地域の活性化、経済的な潤い、人の交流に寄与していかないと続かない。素材はよいものがあるので、期待が持てると思っています。

高橋 最近、エコミュージアムについて勉強しています。ある一定の地域を丸ごと博物館として売り出してしまう、という考え方で、構成要素としては、ハード的な施設や遺産、山や川、海などの地形、気象、さらには地域の歴史・文化、もつという地域住民の生活、こういったものをトータルで売り出せないか、要するに、ひとつの地域が地域丸ごと勝負するにはどうすればよいかということです。そのとき、産・学・官・民、みんなバラバラの方向に動くことができるはずがない。ひとつの方向を向いた時、想像できないようなことが実現できると思っています。産学官連携ということがよく言われていますが、さらにその頂点に民、住民をおいたピラミッドをつくることで、新しい魅力づくり・新しい発展ができると思います。それに向かって、それぞれの地域で取り組み始めるべきだろうと思っています。

石森 人間の生き方としてすばらしいのは、何らかの誇りを持って生きることだと思っています。私は北海道遺産を様々なかたちで維持発展させているのは素晴らしいことだと思っています。しかし、誇りがあれば他者に伝わるかということ、そう簡単ではない。そこをベースアップさせると、北海道遺産を守り育てる人たちに新たな未来が見えてくるのではと期待しています。

昨年、ばんえい競馬が存続の危機にありましたが、これも重要な問題を含んでいると思います。キーワードは、非常に唐突ですが「人生」ではないかと思っています。52件の北海道遺産は、多くの人々の人生が凝縮された結果だと思います。ばんえい競馬も、この北海道の地にそれが生み出されてきた過程において、累々たる人生の織り重なりがあって現在があるという面がうまく強調されるべきでしょう。

例えば、ニッカウキスキーが典型的ですが、単に余市蒸溜所という建物が貴重であるだけでなく、竹鶴政孝さんという方が人生をかけて築き上げたものという点が重要です。これまでのようにマスのスケールで人を惹きつけるのは基本的に無理です。ライフスタイルの変化は、言い換えると多くの日本人が人生を見直そうとしているということ。私自身も還暦で北海道へ来たように、北海道は「熟年よ大志を抱け」と思わせる大地なのです。人生を新しく展開するのにふさわしい。

北海道遺産は、それぞれ貴重な意味があると思いますが、様々な人生の織り成した結果であり、来る人の人生を考えたときに響き合うものがあるかどうかだと思います。訪れた人だけでなく、もてなす側もいろいろな人と触れ合うことで人生を感じて幸せだな、と思える、地域の人も自分たちのやっていることが間違いではないと思えれば、またひとつの違ったステージに進めると思います。

辻井 地域の人々の歴史が重なってというお話がありましたが、北海道遺産は52あり、そこには52の物語があります。これはトランプと同じ数です。トランプの勝負は勝たなくては意味がありませんから、52枚のカードで勝負をしていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

五二の北海道遺産には五二の物語がある。これはトランプの数と同じ。トランプの勝負は勝たなくては意味がありませんから、五二枚のカードで勝負をしていきたい。

辻井 達一氏

